

## 平成28年度に建設工事で発生した事故事例（架空線損傷事故）

### 【事故概要】

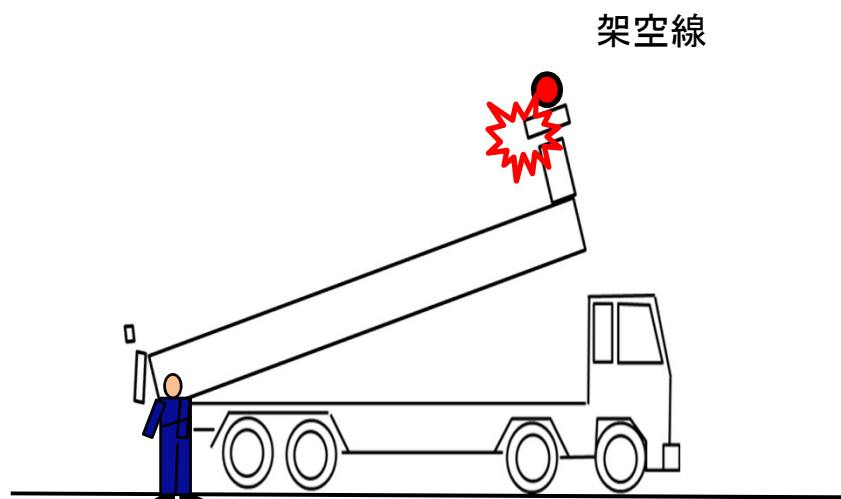
仮置発生土を場内に10tダンプトラックで運搬する作業中、荷下ろしの為ダンプアップをした際、架空線に接触し切断する事故が発生しました。

### 【事故原因】

- ・作業者の不注意
- ・誘導員は荷下ろしの土砂に気を取られていた
- ・運転手は、直接、架空線を目視確認しなかった

### 【改善対策】

- ・架空線直下に専任の監視人を配置する
- ・運転手は、誘導員の合図のみでなく、自らの目視にて安全を確認する



分類: 土工、Dtダンプアップ

被害状況: 通信ケーブルの切断

## 令和元年度に建設工事で発生した事故事例（架空物損傷事故）

### 【事故概要】

山土砂を仮置き場へ運搬する作業をしていたところ、仮置き場からダンプ荷台を上げたまま走行したため、最初に4本の架空線（中電、NTT、○△ネット、NHKケーブルテレビ）に接触切断、さらにNTTケーブルに接触し中電柱共架線の装柱金物を変形させた。

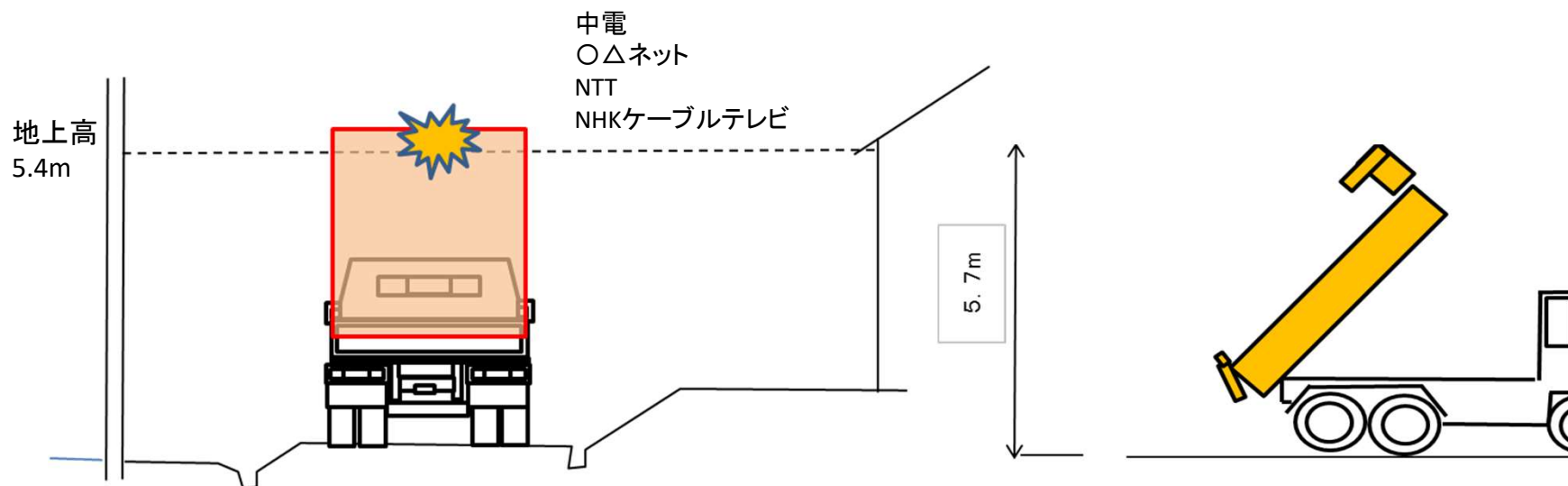
### 【事故原因】

- ・受注者の車両点検不備により、荷台上昇を知らせるブザー故障に気づかず運転者が荷台上昇したままであることを認識できなかったこと。
- ・その日の工程が厳しく、運搬作業を一人で行っていったことから、運転者の不注意を誘発しダンプレバーの操作を失念してしまった。

### 【改善対策】

- ・工事車両の点検の徹底、点検簿の設置。
- ・ダンプの荷台の確認を下車して指差呼称して行う。
- ・資材置き場出入り口に注意看板、ゲートを設置する。
- ・架空線に対する注意看板を設置する。

現状況図



【分類】 土工、DT運搬

【被害状況】 中電他3社 中断時間4.5時間～23.7時間(1世帯)、NTT装柱金具破損

## 令和元年度に建設工事で発生した事故事例（架空物損傷事故）

### 【事故概要】

ダンプにて土砂運搬作業時に、土砂仮置き場で荷卸し後、荷台を上げていることを失念し県道へ進入し、そのまま走行したため、NTT架線(光ファイバーケーブル)に荷台が接触し切断した。

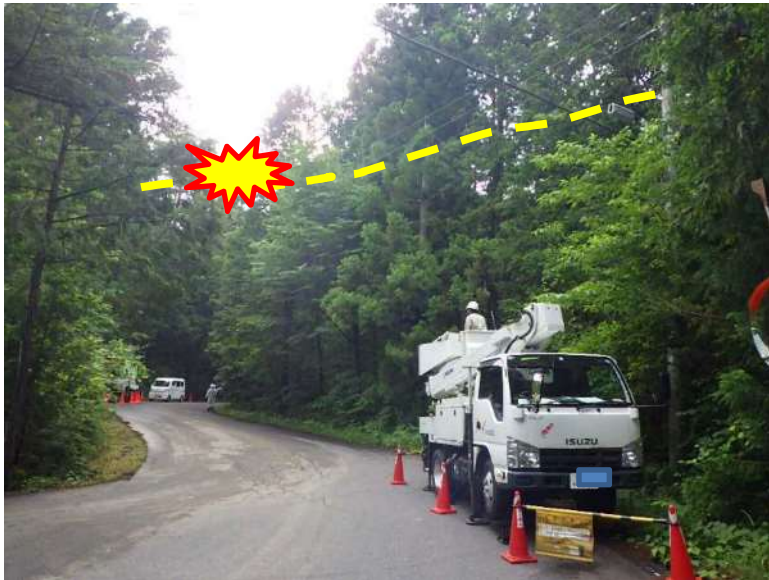
### 【事故原因】

・仮置き場で荷卸し等作業中に携帯電話で、耳に装着したハンズフリー装置で通話した状態のまま現場へ戻ろうとしたため、荷台を下げることを失念し、さらに警告音にも気づかず走行したことにより、県道を横断している架空線に接触した。また、荷卸し後の荷台の状態の確認も怠っていた。

### 【改善対策】

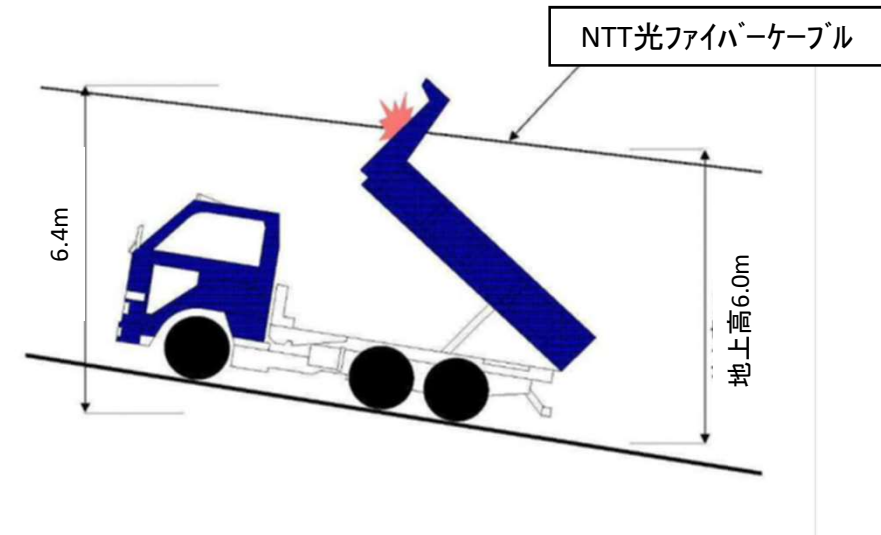
- ・ 運転中の通話の禁止、及び荷台の状態確認の徹底。
- ・ 施工現場や仮置き場等の出入り口で、単管パイプ等による高さ制限の表示の実施
- ・ 施工現場や仮置き場等の出入り口で、荷台等の状態の確認を促す看板の設置
- ・ ダンプトラック車内にダンプ運行注意事項の掲示

現場状況写真



事故状況概略図

DTで、仮置き場から工事現場へ戻る際、ダンプアップした状態で走行したため、NTT架線に接触し、切断した。



【分類】 土工 DTダンプアップ

【被害状況】NTT回線不通(関係戸数 7戸、回線不通時間 約5時間)

## 令和3年度に建設工事で発生した事故事例（架空線事故）

### 【事故概要】

道路工事において、流用土仮置き場へ土砂を運搬したダンプトラックが、県道へ出る際に、荷台が上がった状態で発進したため、荷台でNTT架空線を切断したものの。

### 【事故原因】

・「架空線等上空施設の事故防止マニュアル」により、同事故防止対策を実施することになっているが、架空線に防護管が未設置であったり、出入口に高さ制限装置を設置していない等、対策が不十分であった。  
・朝のKY活動で、架空線事故防止について打ち合わせていたが、ダンプトラック運転手が荷台上昇時の警告音を無視する等注意不足であった。

### 【改善対策】

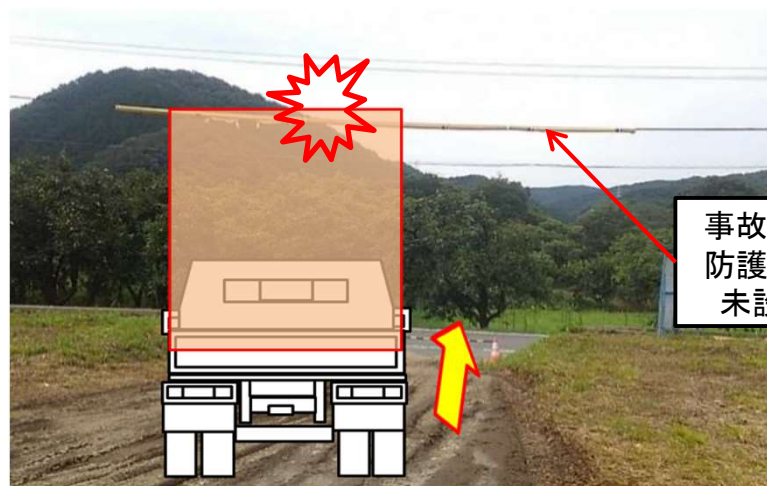
・架空線の手前に簡易ゲートを設置し、架空線に防護管または蛍光リボンを取付け、注意喚起を図る。  
・県道から流用土仮置き場への出入口には交通誘導員を配置し、一般車両への注意と同時に架空線にも留意する。  
・「架空線等上空施設の事故防止マニュアル」により、再度安全教育を行い、再発防止を徹底するとともに、作業前打合せやKY活動にて本工事現場での注意事項を厳守させる。

事故現場状況写真1



ダンプアップした状態で発進

事故現場状況写真2



事故当時  
防護管は  
未設置

【分類】 土工、DTダンプアップ

【被害状況】 公衆災害 NTT通信線2本切断、光ファイバー線1本損傷（30回線が2時間から4時間不通となる）



## 令和3年度に建設工事で発生した事故事例（架空線事故）

### 【事故概要】

掘削残土を仮置き場へ運搬したダンプトラックが、荷台を下げずに走行したため、残土仮置き場出入口にある架空線に接触し損傷させた。

### 【事故原因】

- ・施工計画書では「架空線等上空施設の事故防止マニュアル」により、事故防止対策として注意看板、高さ4mの位置に三角旗の設置、交通誘導員の配置等を行っていたが、三角旗の位置が計画の位置でなく、注意看板も設置されておらず、交通誘導員も不要として配置していなかった。また、出入口に高さ制限装置を置していない等、対策が不十分であった。
- ・ダンプトラック運転手は、当日の作業を急ぐあまり、ダンプアップのアラートが鳴っていたにもかかわらず、荷台が十分下がりにくまま走行した。

### 【改善対策】

- ・高さ制限装置を設置し、その手前に停止線も設ける。また、架空線注意看板、横断幕等を増設し、一層の注意喚起を図る。
- ・計画とおり、交通整理員を配置し、ダンプトラックの出入りの際の架空線の見張りも行う。
- ・ダンプトラックのキャビン内に、荷台が上がっていることを知らせる回転灯を取付けるとともに、運転席から荷台を確認できるカーブミラーも設置する。
- ・元請けは、土砂運搬の下請けに対する安全教育を徹底する。

事故現場状況写真



ダンプアップした状態で進行

事故対策状況写真



【被害状況】 公衆災害 NTT光ケーブル線1本(ケーブル内100本の通信線の内6本損傷)、民間ネットケーブル1本、ケーブル吊り線1本の被覆のみを損傷(いずれも通信障害なし)

【分類】 土工、DTダンプアップ